

■ 議 事

諮問事項（1）今後の高齢社会対策のあり方と施策の方向性 1 ページ

諮問事項（2）～（4）のまとめ（意見集約の方向性）について
2～4 ページ

諮問事項（２）～（４）のまとめ（意見集約の方向性）について

諮問事項（２）

健康寿命の延伸・高齢者が活躍できる社会づくりについて

委員の御意見

- ・ 高齢者の実態把握とフォローの必要性
- ・ 身近な通いの場での日常的な運動習慣の必要性
- ・ 市民（マンパワー）による健康寿命延伸の取り組み
- ・ シルバー人材センターでの生きがい、自信、健康、ゆとり、喜び
- ・ ボランティア活動への参加

事務局の説明

- ・ 健康長寿への三本柱「食」「運動」「社会参加」の推進
- ・ 協議体等による地域の支え合い
- ・ SDGs モデル事業の推進
- ・ 健康長寿社会を実現し、高齢者が活躍する社会を目指す。すべての世代がともに支え合う地域共生社会の実現。

諮問事項（３） 既存事業の見直し

1 敬老祝金事業

委員の御意見

- ・ 敬老祝金には、県内一の経済都市とした功績など、これまでの高齢者の労をねぎらう意義がある。
- ・ 敬老祝金を届けることを通じて、地域とのつながりを持たせるなど、見守りの役割がある。
- ・ 見直しする場合は、その目的について、市民に対する丁寧な説明が必要である。
- ・ 高齢者健康長寿サポート事業等、高齢者施策全体での見直しを考えていく視点も必要。
- ・ 平均寿命の伸び等から、支給年齢を引き上げても（88歳から）良いと思う。

事務局の説明

- ・ 平均寿命の伸びや他市の状況、さらに高齢者健康長寿サポート事業の伸び等、全体を見て、対象年齢と金額の見直しをする必要性
- ・ 支給方法の見直しの検討

2 高齢者健康長寿サポート事業

委員の御意見

- ・ バス・タクシー利用の対象年齢拡大（年齢引き下げ）
- ・ 仮に助成額を見直し（減額等）しても、免許返納、社会参加促進による介護予防、実質的に利用できる人への支援のうえから、バス・タクシー利用の対象年齢を引き下げたほうがよい。
- ・ 年齢区分により制度の差異があることについて理由がないのではないか。
- ・ 高齢者が大変喜んでいる事業なので、可能であれば、助成額の増額、バス・タクシー利用の年齢引き下げ、100円券の導入を検討してほしい。
- ・ スポーツジム等、健康寿命延伸に資するサービスへの利用拡大

事務局の説明

- ・ 制度の見直しに当たっては、事業の対象年齢、助成額の見直しや他の事業の見直しも併せて検討する。

3 敬老会

委員の御意見

- ・ 開催規模（エリア）の検討
- ・ 参加のための移動負担軽減のため、身近な小単位での実施
- ・ 参加するうえでの招待者の会場までの負担感の解消。移動手段の確保。
- ・ 地域の若い人材の敬老会への参加
- ・ 記念品のあり方の検討
- ・ 招待者が参加したいと思う敬老会行事の魅力づくり、工夫。行事内容の魅力の検討の必要性。
- ・ アンケートで出席しない理由に「まだ若いから」⇒対象年齢の引き上げの可能性
- ・ 地域に根ざした、負担感の少ない、参加者が増える方式の検討

事務局の説明

- ・ 昭和 63 年度から実行委員会方式により敬老会を開催し、**30 年以上経過**したことから、**実施方法等について見直し**の必要がある。
- ・ 敬老会は、市と各地区実行委員会との共催であることから、審議会からの意見も踏まえて、実行委員とともに、今後の敬老会の開催方法等について、検討を進める。

諮問事項（４） 高齢者施設のあり方について

委員の御意見

- ・ 市の施設の **PR** の必要性（施設の概要、活用方法、料金等）
- ・ **民間事業者と競合する施設**の必要性の精査
- ・ デイサービスセンター（中央、富久山）の方向性見直し（共生型施設への転換）
- ・ **公共施設の配置状況等、地域の実情**を踏まえて施設のあり方を検討
- ・ 公共施設を廃止する場合の**利用者への配慮**について検討の必要

事務局の説明

- ・ **民間事業者と競合する施設**やサービスの必要性を精査する。
- ・ 高齢者健康長寿サポート事業等、**他の事業の実施状況**も踏まえて、施設のあり方を検討する。
- ・ 高齢者が自ら活動する拠点として活用するとともに、子どもの居場所づくりなど、**多世代利用**を図るなど、施設の**有効利用**を進める。